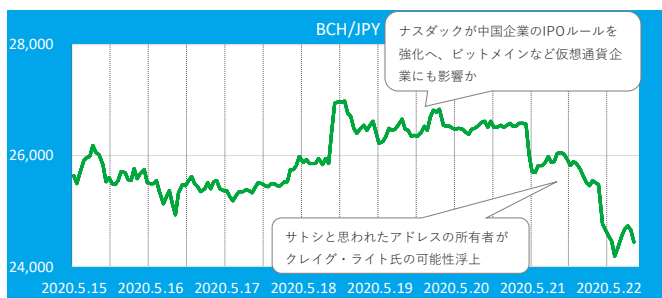
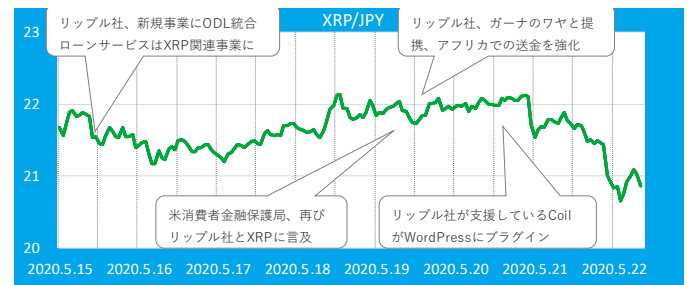
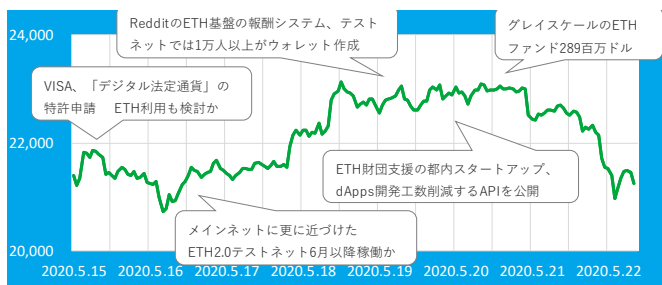
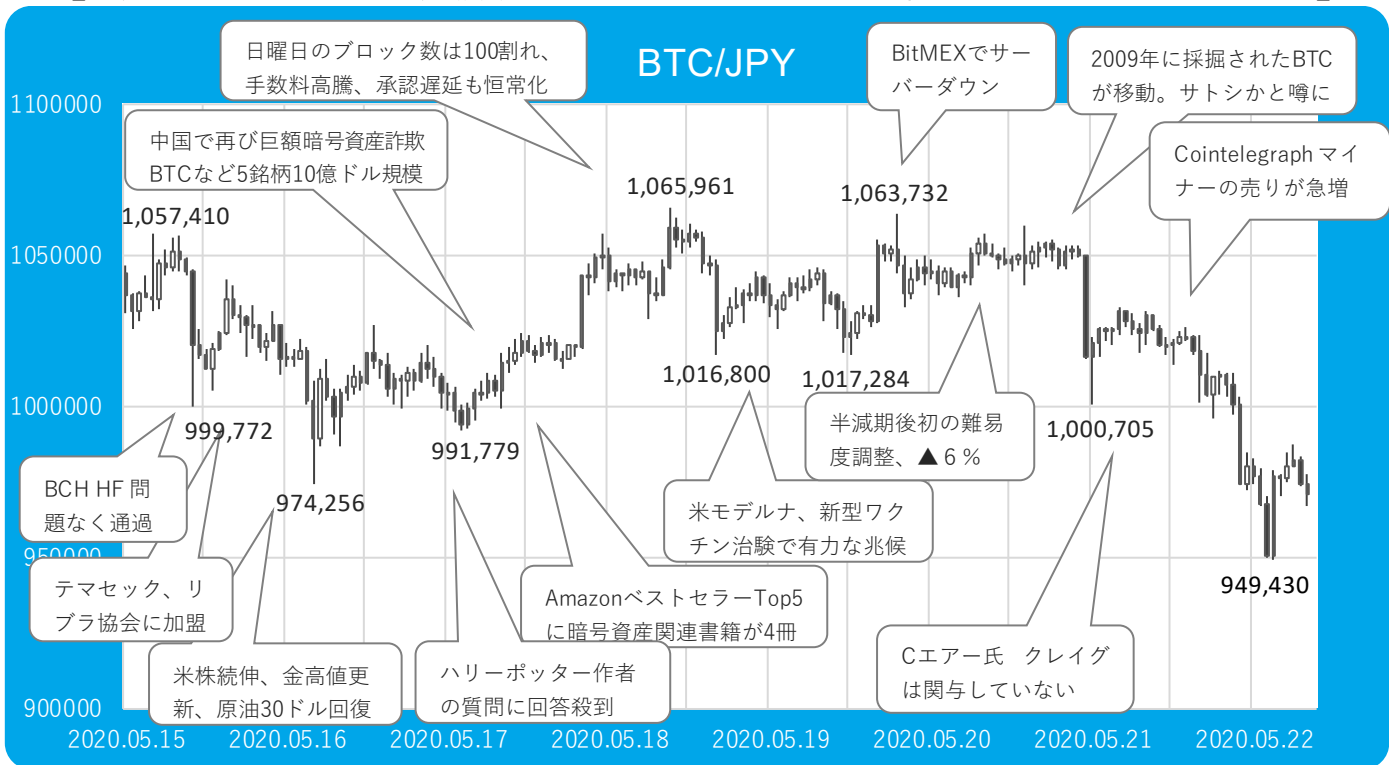


【1万ドルトライに失敗したビットコイン、来週はリベンジなるか】



Review

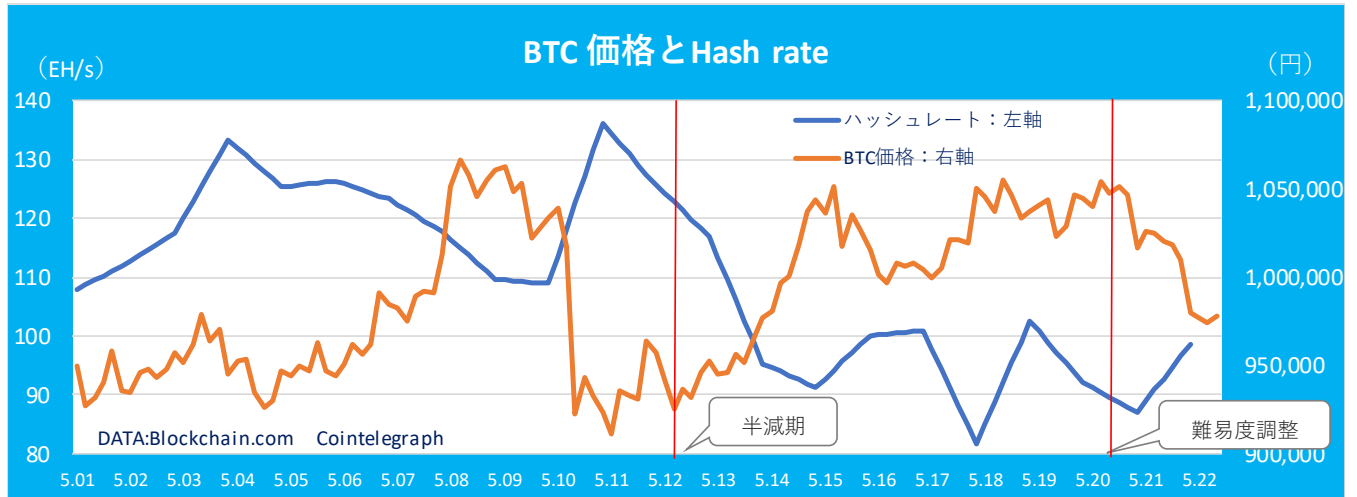
1万ドルトライに失敗

今週のBTC相場は高値圏でもみ合い。先週に続き、1万ドル（107万円）をトライするもなかなか抜けず、週後半には95万円近辺まで値を下げている。12日に半減期を無事通過したこともあり1万ドルをトライしていたBTC相場だが、CMEの窓埋めも1万ドルにもあともう少しで跳ね返される展開。巷でのBTCへの注目度が高まる中、97万円台切り返すと、中国での詐欺事件で売られた反動もあり再び1万ドルをトライした。ハッシュレートの低下やBitMEXでのサーバーダウンなどもあり、レンジ上抜けにあと一歩及ばない展開が続くと、市場の注目は半減期後初めての難易度調整に集まった。▲6%の調整が不十分だったせいか、承認遅延の解消が進まず、決め手に欠ける展開が続いていると、2009年2月に採掘されたBTCが移動、サトシやクレイグ氏など初期マイナーの売りが警戒され、反落、100万円を割ると下げ足を速め、95万円近辺まで売られている。

Outlook

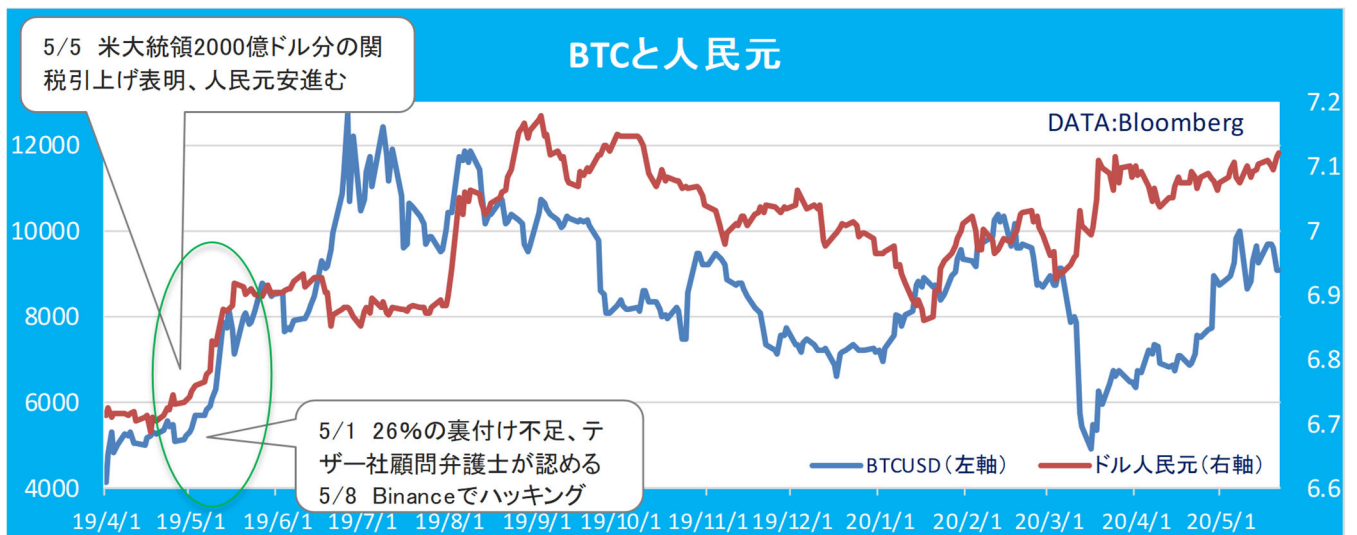
「先週の二の舞」

来週のBTC相場は堅調な展開を予想する。先週は「堅調な展開」を予想、しかし足元のハッシュレート低下が続くようなら「(1万ドル台を維持できず89万円まで叩き落とされた)先週の二の舞になるリスク」もあるとした。週前半は予想通り堅調な展開で1万ドル突破は時間の問題かと思われたが、半減期後初の難易度調整後もハッシュレートの低迷と手数料高騰と未承認取引増が続いたこともあり上抜けできずにいるとサトシ問題から95万円台までの急落を見せる格好となった。



サトシ騒動

サトシ問題とは2009年2月にマイニングされたまま一度も動かなかったBTCが移動されたことから一説には100万BTC保有するサトシナカモトが売り始めるとの憶測が駆け巡った。その後、サトシではないという認識が広がったが、今度は自称サトシのクレイグ・ライト氏ではないかとの憶測が浮上した。同氏周辺は否定しているが、同氏が110万BTCの支払いを命じられた裁判で提出した保有しているが動かせないBTCのアドレスと一致したからだ。この話が本当であれば、110万BTCが市場に出回る可能性もあり、潜在的な売り圧力となり得る。二転三転を繰り返す同氏の主張に食傷気味の市場だが、今回ばかりは警戒感を強めている。



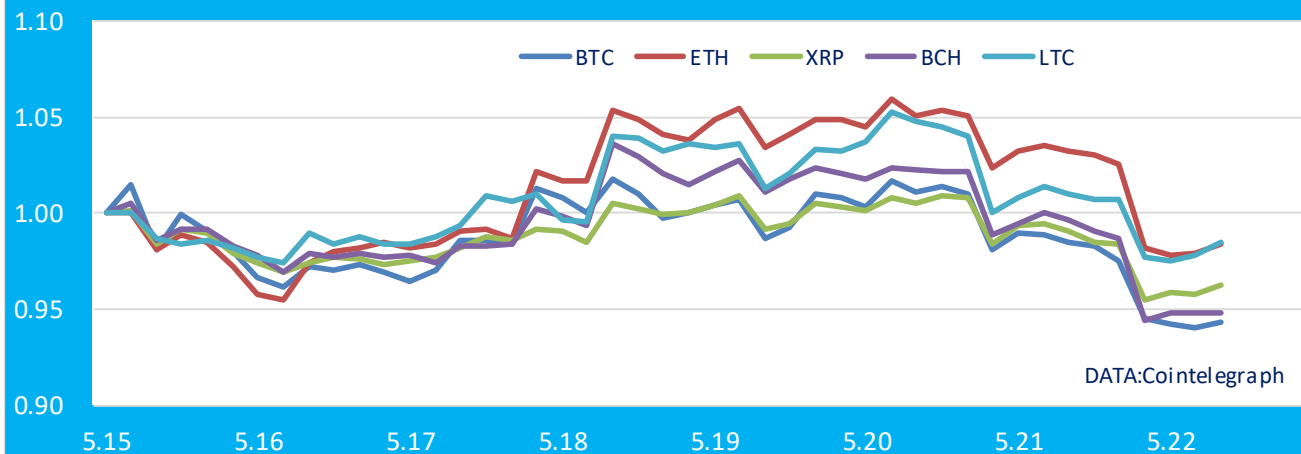
昨年5月と似た状況

足元の状況は昨年5月に似ていると考える。当時は市場を揺るがしかねないとされたテザーの裏付け不足が判明、IEOで注目を集めていたBinanceでハッキングが発生した。しかしこの悪材料で下げ止まると米中貿易戦争の激化と人民元安によるメインランドからの逃避需要でBTCは上昇したが、足元では香港版国家安全法を巡って米中対立が先鋭化、人民元も年初来安値を更新している。今回の急落で俄かに弱気予想が出回り始めたが、そうした声がある間は「懐疑の中で相場は育つ」だろう。一方でピークのサインは行き過ぎた楽観なので注意されたい。

予想レンジ：90万～120万円

Altcoin

主要通貨推移(5/15=1)



上記は先週金曜日 15 日を 1 として、主要 5 通貨のその後の推移を示したものの。今回、特徴的なのは ETH のパフォーマンスの良さと BTC や XRP の低迷だ。1 万ドルや 21 セントというレジスタンスに上値を抑えられた BTC・XRP に対し、ETH2.0 のメインネットに近い形でのテストネットが 6 月に公開されるとされるなど好材料が続いた ETH とのパフォーマンスの差と言えるかもしれない。

もう一つ、ETH と XRP とのパフォーマンスの差として挙げられるのが、BTC プラスワンとしての投資家の需要だ。今週、暗号資産ヘッジファンド大手グレイスケールのレポートで全運用資産が 38 億ドルに達し、うち 33 億ドルが BTC トラストと発表した。昨年同時期と比べ 8 割増だったことが話題となったが、同じ資料で ETH トラストは 289 百万ドル、XRP トラストは 3 百万ドルと発表されている。即ち、機関投資家などが投資する場合、まずは BTC で、分散投資の観点で ETH までは手が出るが、XRP やそれ以外のアルトコインには資金は入りにくいことを示している。従って、CME の BTC 先物の建玉の記録更新やルネッサンステクノロジーやチューダーの参入など機関投資家からの資金流入が始まりつつあることが、両社のパフォーマンスに差をつけた可能性もあろう。

ETH: 今週の ETH 相場は上に行き来いの展開。VISA の「デジタル法定通貨」の特許申請で ETH の利用に触れられていることやメインネットに更に近づけた ETH2.0 テストネット 6 月以降稼働するとされたことも有り 21000 円近辺から 23000 円近辺まで値を上げた ETH だが、その後は決め手に欠ける展開。BTC のサトシ騒動で 21000 円台に値を下げているが、サトシ騒動は ETH の需給には無関係で影響は限定的か。

XRP: 今週の XRP 相場はもみ合い推移。21 円 (20 セント台) でのもみ合いから、22 円台に乗せるも BTC の反落もあり 20 円台へ反落。しかし足元では 21 円台に切り返している。材料的にはローンサービスと ODL との統合、アフリカでの送金強化、米当局による言及などポジティブなものが多かった。中でも Coil がサイト制作の最大手 WordPress にプラグインしたことは大きい。トークンによる高速で安価な送金は個人の本国送金になど小口の国際送金と共にインターネット上のマイクロペイメントで威力を発揮する。Forbes によれば、Web サイトの作成者がブロックチェーンで従量制の支払いを受け取ることができるとしている。ある調査によれば世界の Web サイトの 1/3 以上が WordPress ソフトで作成されており、バージョン 5.4 は 27 百万回ダウンロードされている。まだ具体的な内容は明らかではないが、記事では巨大なビジネスチャンスだとしている。

BCH: 今週の BCH 相場は上に行き来いの展開。5 月 15 日のハードフォークを大きな混乱なく終えると、BTC の上昇もあり 25000 円台から 27000 円台へ上昇した。しかしその後は、サトシ騒動で 24000 円台に値を落とすも、若干持ち直している。米中対立激化でサポーターである BitMAIN 社の NY 上場が遠のいたが影響は限定的にとどまっている。

LTC: 今週の LTC 相場は引き続き目立った材料が無い中、上に行き来いの展開。LTC 財団のアタリとの提携が話題を呼んだ。創始者チャーリーはサトシ騒動を受け、匿名化の必要性を説いている。

著作権表示©2019 FXcoin 株式会社

本レポートは一般的な情報提供を目的に作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図していません。レポート内のいかなる情報又は意見も、仮想通貨の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表 明又は保証するものではありません。本レポートは予告なしに内容が変更されることがあります。本レポートは著作物であり、著作権法 により保護されております。当社の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家へ配布することはできません。